

# meiji 駿台倶楽部会報

## 明治大学野球部OB会ニュース

発行 駿台倶楽部  
 会長 吉川 芳登  
 府中市若松町5-6-1  
 明治大学野球部合宿所内  
 電話番号 (042) 313-4134  
 F A X 番号 (042) 364-5605

# 春5位も秋は立て直し2位!!令和3年は逆襲へ 丸山主将でV奪回



**B佐野** 首位打者 4面

**C森下** 新人王 5面

**入江B** ドラ1 終面

▽丸山主将 背中やプレーでチームを引っ張っていきます。  
 丸山を支えるだけなく、自分もチームを引っ張っていきます。  
 丸山を支えながらチームを引っ張る姿勢を忘

▽陶山副主将 日本一を目指し日々努力していきます。  
 3年) 自覚と責任を持ち、チームのために徹します。

新チームから西條裕貴(新4年)がマネジャーに就任した。これまでの投手として頑張ってきたが、最終学年で転向。連盟、チームのために奮闘する。

島岡御大像の前でV奪回を誓う新幹部たち。丸山主将(右から2人目)を囲む左から高橋、植田、陶山の副主将たち

### 新型コロナウイルスの影響でリーグ日程大幅変更

令和2年のシーズン日程は新型コロナウイルスの影響で大きく変更になった。春季リーグ戦は8月に1回戦総当たり制で、秋季リーグ戦も勝ち点制から2回戦総当たりの10試合、延長なしのポイント制で開催された。

春は残念ながら1勝4敗、東大以外に敗れ5位に終わった。それでも清水風馬一塁手(4年)常総学院)がベストナインに選ばれた。秋は公家響主将(横浜)を中心にチーム一丸となり、優勝こそ逃したが6勝2分2敗の7ポイントの2位で終了。西山虎太郎遊撃手(2年)履正社)が打率2位の成績で初のベストナインとなった。ドラフト会議では入江大生投手(作新学院)がDeNAの1位指名を受け入団、11年連続のドラフト指名となった。

新チームは丸山和郁外野手(前橋育英)が新主将に就任。高橋聖人投手(小諸商)植田理久都捕手(高松商)陶山勇軌外野手(常総学院)が副主将として丸山を支える。また11年間、野球部を支えていただいた井上崇通野球部長が大学定年に伴い3月で退任。山本雄一郎副部長が部長に就任する。

OBではDeNAに入団4年目の佐野恵太外野手が初の首位打者を獲得。広島ルーキー森下暢仁投手が新人王に輝いた。

# 4年生 団結の力で秋2位

## 春ベスト9の清水がベンチまとめ、公家主将とチーム一丸



（右から）常にチームを引っ張った公家主将ベンチの先頭に立ってナインを鼓舞した清水（中央）



試合はベンチから作る。秋季リーグ戦で特に目立ったのがベンチからの声だった。公家主将清水風馬副主将を中心に一丸のムードがネット裏まで伝わった。4年生たちが最後まであきらめない姿勢を見せ、後輩に明治野球を託した。

### 4年生8人が卒業後も野球継続

卒業生で野球を続ける選手は8人。中山晶量はNPBでの指名がなかったため、独立リーグの徳島インディゴソックスに入団し将来のNPB入りを目指す。社会人に進むのは石毛力斗投手が明治安田生命、市岡奏馬副主将が日本製鉄鹿島、公家響主将は大阪ガス、清水風馬副主将は明治安田生命、スイッチヒッターの鈴木貴士内野手は東京ガス、1番打者として本塁打も放った藤江康太内野手は茨城日産自動車に進む。また小栗未琴マネはソフトバンク球団職員として再び野球の世界に飛び込む。

◇4年生の進路◇		※◎は野球継続	
選手名	(出身校)	進路	
石毛力斗	(健大高崎)	明治安田生命	◎◎
金光大生	(作新学院)	徳島インディゴソックス	◎◎
中山晶量	(大分県立)	徳島インディゴソックス	◎◎
今関凌雅	(明大甲府)	日本テレビ放送網	◎◎
公家響	(横濱国立)	大阪ガス	◎◎
小林清	(明大甲府)	大阪ガス	◎◎
清水風馬	(明大甲府)	明治安田生命	◎◎
鈴木貴士	(明大甲府)	東京ガス	◎◎
藤江康太	(明大甲府)	茨城日産自動車	◎◎
木村隆	(明大甲府)	茨城日産自動車	◎◎
藤原隆	(明大甲府)	茨城日産自動車	◎◎
青木長	(明大甲府)	所島井工業	◎◎
原松渡	(明大甲府)	所島井工業	◎◎
大原健	(明大甲府)	三井住友銀行	◎◎
小関吉村	(明大甲府)	三井住友銀行	◎◎
太田内	(明大甲府)	三井住友銀行	◎◎
藤小栗	(明大甲府)	三井住友銀行	◎◎



清水「腐っている暇はない」チーム鼓舞  
秋の開幕戦、早大・早川に17奪三振を奪われ敗れた2年生の「上田」の名前があった。春、一塁手でベストナインに選ばれた清水はベンチ。最後のシーズンを迎え、覚悟を語った。清水はベンチに「腐っている暇はない」と語り、一塁を守っている清水にベンチから最上級の長原拓海（日南学園）の激励の声が何度も届いていた。「本心に心強かった。上田はオリーブで結果を出していたし納得しました。今度は僕が長原と一緒にベンチリリーフになる」と話した。守備の時はベンチ中央で、守備が終われば真っ先にベンチを飛び出しナインを出迎える。下級生が野球をしやすいように励まし、全員を鼓舞。

でも最上級生が裏方でベンチで支えた秋季リーグ戦。今季の新チームは、4年生が残り少なくなった一丸野球に磨きをかけて優勝を目指した。  
公家も「風馬（清水）とはいつも話してやってきた。春の反省から1球へのこだわり、走塁の意識、最後まであきらめないなど下級生からも意見を聞いてきた。少しでも3年以下の選手に『明治らしさ』を残したいと思っただけで試合に臨みました」とベンチ一丸野球を実践した。  
早慶に1敗ずつしたが、痛く優勝は逃したが立大、法大には連勝。東大1回戦ではデータ班として裏方を務めてきた4年生の金光勇介（大分上野丘）を何と登板させた。2得点。最終回に念願かなってマウンドに送り、全員がリーグ初登板を祝福した。3年生以下が中心のチーム

秋季リーグ戦翌日からフレッシュマンイベントが行われ、明大が3年ぶりの40回目の優勝を果たした。  
A組の明大は予選リーグで早大と対戦。4投手のリレーと9安打6点と効率のいい攻撃で振り切った。法大との2戦目は先発・村田賢一（1年、春日部共栄）の力投もあり5-0で快勝しA組1位を決めた。B組1位の慶大との決勝戦は先発・高山陽成（2年、作新学院）・石原勇輝（1年、広陵）のリレーで完封。9回に久島光太郎（1年、徳島城南）の犠飛で決勝点を挙げた。  
他校が守備の乱れなど失策が目立つ中3試合で2失策。小池悠平投手（2年、前橋育英）が軸となり3年ぶりの優勝を決めた。

# 02年原島以来1年生4番が誕生!!

## 上田希由翔「緊張」も堂々の打率5位



1年生4番として立大戦でリーグ初本塁打を放った上田

率 3.44本1点7  
送りの出た。長打力に加えて柔軟性もある。スタメン初戦で初安打を記録すると5試合連続安打。好機にも強くチーム2位の7打点をマークし、立大1回戦では左腕・宮海から右翼席に初本塁打も放った。終わってみれば9試合に4番を務め、34打数11安打の打率・3.44。打撃ベスト10の5位に食い込む活躍だった。一初めでスタメンで出たときは緊張しましたが、4年生から、最初は慣らしてあげた。4年生から、最初は慣らしてあげた。4年生から、最初は慣らしてあげた。

西山 秋ベスト9 バント6度失敗で首位打者は逃した  
秋季リーグ戦で唯一ベストナインに選ばれたのが西山。内野の要・遊撃手として守備だけでなく打撃も開花。打率.379で2位に躍進し大きく成長した。ところがOBたちからは「何やってんだ!」と叱責を受けることになった。なぜ? 下位を打つ西山は計6度もバントを失敗。もし犠打を決めていれば打数に入らず、楽々首位打者に輝いていたからだ。

もったいないという意味を込めての叱責。西山も十分分かっていて「最初に失敗して、逆に何とかしなくちゃと緊張しすぎてしまった」と反省した。ただ打撃は見事だった。1年から起用してもらい、2年春の東大戦まで無安打。ここでテキサスヒットがでて「肩の力が抜けました」と本塁打も打った。そして秋は履正社の後輩、西川から「西山さん、タイミングをもう少し早くした方がいいと思いますよ」とのアドバイスがはまり、余裕を持って打席に立てるようになった。  
今季は3年生でも「内野をまとめられるように頑張りたい」と上級生の自覚も芽生えたくましさが増してきている。

植田 信頼勝ち取る  
○…秋にレギュラー捕手の座をつかんだのが植田。早大2回戦から5番を任せられ、その試合で貴重な1号ソロを放ち引分けに持ち込む要因となった。「やはり捕手はリード。法政や慶応戦は相手打者をどう攻めるか、いっぱいになりました。2連戦後の月曜日は疲れ果ててました」と投手陣を引っ張った。今季は副主将にも選ばれ「頼られる捕手を目指します」と目標を口にしていた。  
西城 初勝利「自信」  
○…秋の立大2回戦でリーグ戦初勝利をマークしたのが西城（3年＝東



率 3.44本1点7

す」と笑う。高2の冬には愛知県選抜でオーストラリアに遠征。中日にドラフト1位で入団した石川（東邦）を差し置いて4番に座った男。名前の希由翔（きゆうと）は親が「希望（はば）だけ」という意味で命名。「子供の頃はかわれ嫌だったけど、今は同じ名前の人に出会ったことがないので気に入ってます」とキラキラネームを歓迎している。今季の目標は優勝とベストナイン。打率も残せる長距離砲として三冠王まで期待させる大砲が2年目の飛躍を誓っている。

村松 5戦出場4割  
○…秋に頭角を現したのが村松二塁手（2年＝静岡）。規定打席には足りなかったが、5試合に出場し打率.400、6打点とチームの勝利に貢献した。立大戦では代打で2点二塁打を放つなど勝負強さもアピール。50分5秒の俊足も強みだ。「かなり自信になりました。オフは体力を強化して逆方向に長打を打てるようにしたい」とレギュラー獲りへ目を輝かせた。

竹田 エースの自覚  
○…秋に2勝を挙げ、防御率2位の1.33の記録を残した竹田（3年＝履正社）法大、東大では7回途中までヒットを許さず2勝をマークした。西嶋コーチから投球時のテークバックのアドバイスをを受け、制球力がぐっと上がった。入江が抜けた

（左から）早大2回戦でリーグ初本塁打を放った植田、立大戦で2勝を挙げた竹田



19年春、リーグ優勝を決め胸上げられる井上部長。常にベンチで選手と会話をしている井上部長



# 11年間、野球部支え チームには欠かせない存在 井上野球部長ありがとう

### 善波前監督 田中監督の良き相談相手



2010年から11年間、野球部長として現役選手、監督、田中武宏監督の良き相談相手となってきた。井上野球部長は、常にベンチで選手と会話をしている。退任を告げ、部長に就任する。

「で声をかけていただくことで、本当に気が入りました。本当にありがとうございました」と公家は寂しげに話した。部長就任から11年間、常にドラフトで入り、選手が口を閉ざすことが続いた。それが、井上部長の良き相談相手となってきた。井上部長は、常にベンチで選手と会話をしている。退任を告げ、部長に就任する。

3月の定年に伴い退任へ 田中監督「感謝しかない」

井上野球部長は、常にベンチで選手と会話をしている。退任を告げ、部長に就任する。

丸山清光氏が上梓「なんとかせい！」

丸山清光氏宛てのメッセージ。丸山清光氏は、75年に春秋連覇を果たした時の主将。丸山清光氏が島岡吉郎監督を題材にした「なんとかせい！」島岡御大の置き手紙(文芸春秋、定価1800円)を昨年上梓した。法大・江川を倒しての連覇。島岡御大の指導とは、人間力とは、長野県出身の同郷であり、主将として島岡監督から全幅の信頼を受けた丸山氏ならではの話しが満載。島岡門下生はもちろん、若いOBもぜひ一読してほしい。

15人合格 今年もスポーツ推薦受験で15人が明大に合格。昨年は春、夏とも甲子園大会が行われず、出場経験者は例年より少なくなっている。

細田学園丸山監督 駿台倶楽部賞受賞

丸山清光氏宛てのメッセージ。丸山清光氏は、75年に春秋連覇を果たした時の主将。丸山清光氏が島岡吉郎監督を題材にした「なんとかせい！」島岡御大の置き手紙(文芸春秋、定価1800円)を昨年上梓した。法大・江川を倒しての連覇。島岡御大の指導とは、人間力とは、長野県出身の同郷であり、主将として島岡監督から全幅の信頼を受けた丸山氏ならではの話しが満載。島岡門下生はもちろん、若いOBもぜひ一読してほしい。

駿台倶楽部元会長 坂本哲郎氏が死去

坂本哲郎氏(享年89)が、5月17日お亡くなりになりました。坂本氏は明治から明大に進学、大学時代は下級生をまとめる学生リーダー的存在で、チームの中心的存在として活躍しました。常務時代「プロ野球ニュース」を立ち上げ、野球ファンの絶大な支持を受けました。駿台倶楽部でも会長としてOBをまとめ現場をバックアップ。明大野球部に貢献をされました。心よりご冥福をお祈りします。また令和2年度、野球部に連絡のあった亡くなられたOBの方



◇8月10日 神宮第2	明大010 000 000   1	早大100 003 01X   5
◇8月11日 神宮第2	明大010 001 100   3	立大111 000 01X   4
◇8月13日 神宮第1	慶大011 402 030   11	早大000 100 001   2
◇8月14日 神宮第1	法大001 000 000   10   1   3	明大000 100 000   10   2
◇8月17日 神宮第2	明大500 101 002   9	東大000 100 000   1

春は防御率1.50も0勝に終わった入江だが、秋は3勝を挙げ、法大戦では初の完封勝利も達成した

項目	選手名(所属)	票	回
投手	徳山 壮磨(早)	満	初
捕手	福井 章吾(慶)	10	初
一塁手	清水 風馬(明)	9	初
二塁手	金子 銀佑(早)	12	初
三塁手	中村 迅(法)	9	初
遊撃手	瀬戸 西純(慶)	満	初
外野手	永広 知紀(法)	満	初
〃	宮崎 秀太(立)	満	初
〃	新美 貴太(慶)	12	初

◇9月19日 神宮第2	明大000 000 001   11	早大200 041 00X   7
◇9月20日 神宮第1	早大300 000 000   3	明大000 011 100   3
◇9月26日 神宮第2	明大000 131 040   9	立大102 000 001   4
◇9月27日 神宮第1	立大020 000 100   3	明大010 500 30X   9
◇10月11日 神宮第2	法大000 000 000   0	明大000 202 00X   4
◇10月12日 神宮第1	明大000 200 102   5	法大000 000 000   0
◇10月18日 神宮第2	明大000 000 200   2	慶大000 100 001   2
◇10月19日 神宮第1	慶大000 240 001   7	明大101 000 000   2

秋はV逸も2位

選手名(所属)	打率	國	打	圏	圏	困
①竹 葉(立)	.429	9	21	9	2	0
②西 山(明)	.379	10	29	11	1	0
③正 木(慶)	.378	10	37	14	4	2
④広 瀬(慶)	.351	10	37	13	6	2
⑤上 田(明)	.344	9	32	11	7	1
⑥三 井(立)	.314	10	35	11	6	2
⑦福 井(慶)	.303	10	33	10	3	0
⑧早 川(東)	.300	10	30	9	1	0
⑨佐藤 勇(法)	.290	10	31	9	4	0
⑩野 村(早)	.286	10	35	10	3	0

選手名(所属)	打率	國	打	圏	圏	困
①早 川(早)	0.39	46	7	6	0	2
②竹 田(明)	1.33	20 1/3	4	2	0	3
③鈴 木(法)	1.95	37	8	1	3	8
④入 江(明)	2.35	38 1/3	8	3	1	10
⑤森 田(慶)	2.70	23 1/3	5	1	0	7
⑥高田 孝(法)	3.07	29 1/3	6	1	2	10
⑦木 沢(慶)	3.11	37 1/3	7	2	1	13
⑧中 川(立)	3.14	28 1/3	8	2	2	10
⑨井 沢(東)	4.60	29 1/3	6	0	5	15
⑩中 崎(立)	4.61	27 1/3	8	0	3	14

項目	選手名(所属)	票	回
投手	早川 隆久(早)	満	初
捕手	福井 章吾(慶)	7	初
一塁手	山田 隆太(慶)	11	初
二塁手	山下 健太(立)	9	初
三塁手	山下 悠介(慶)	11	初
遊撃手	西山 虎太郎(明)	10	初
外野手	正木 哲也(慶)	満	初
〃	野村 健太(早)	満	初
〃	三井 健太(立)	11	初

選手名(所属)	打率	國	打	圏	圏	困
①徳 山(早)	0.00	16	2	1	0	0
②徳 山(立)	1.29	14	4	1	1	2
③入 江(明)	1.50	12	3	0	1	2
④鈴 木(法)	1.54	11 1/3	4	1	0	2
⑤高田 孝(早)	1.74	10 1/3	3	0	0	2
⑥早 川(法)	2.12	17	2	1	0	4
⑦木 沢(慶)	2.45	11	3	2	0	3
⑧三 浦(法)	2.61	10 1/3	4	0	1	3
⑨中 川(立)	3.52	15 1/3	4	0	1	6
⑩井 沢(東)	8.18	11	4	0	1	10

順	校名	法大	慶大	早大	立大	明大	東大	勝	敗	分	勝率
①	法大	●	○	○	○	○	○	4	1	4	.800
②	慶大	●	●	○	○	○	○	4	1	4	.800
③	早大	●	○	●	○	○	○	3	2	3	.600
④	立大	○	○	○	●	○	○	3	2	3	.600
⑤	明大	○	○	○	○	●	○	1	4	1	.200
⑥	東大	○	○	○	○	○	●	0	5	0	.000

順	校名	早大	慶大	明大	立大	法大	東大	勝	敗	分	勝率
①	早大	○	○	○	○	○	○	7	0	3	8.5
②	慶大	○	○	○	○	○	○	6	2	7	
③	明大	○	○	○	○	○	○	6	2	7	
④	立大	○	○	○	○	○	○	3	5	2	4
⑤	法大	○	○	○	○	○	○	2	6	2	3
⑥	東大	○	○	○	○	○	○	0	9	1	0.5

項目	選手名(所属)	票	回
投手	早川 隆久(早)	満	初
捕手	福井 章吾(慶)	7	初
一塁手	山田 隆太(慶)	11	初
二塁手	山下 健太(立)	9	初
三塁手	山下 悠介(慶)	11	初
遊撃手	西山 虎太郎(明)	10	初
外野手	正木 哲也(慶)	満	初
〃	野村 健太(早)	満	初
〃	三井 健太(立)	11	初

公家主将(左)に励まされながら、リーグ戦初登板のマウンドに上がった金光

# 指名1位DeNA入江

# 大魔神背番「22」

明大のエース入江大生（作新学院）がプロ野球新人選択会議（ドラフト）でDeNAから入札1位指名を受け入団した。背番号は1億1600万円（いずれも推定）と最高条件での入団となった。広島の森下暢仁に続けと新人王を狙ってプロの世界に飛び込む。



DeNAの三浦大輔監督（左）と握手するドラフト1位の入江（中央）



森下先輩に続く「目標は10勝」  
 昨年の11月16日、島岡寮の食堂に緊張した面持ちの入江がいた。例年ならチームメイトも取り囲むが、コロナウィルスの影響で報道陣のみ。田中監督、井上部長に挟まれテレビ画面を見つめた。そして「DeNA 入江大生 投手 明治大学」の文字が流れると報道陣からも「おお」と声があがった。

エースに成長したもののリーグ戦勝利は5勝。当初は外れ1位どの声も聞かれたがDeNAが本格派として入りの右腕に惚れ込んでの単独指名。緊張から解き放たれた入江がやっと笑顔になった。

3年生までは1学年上の森下を追いかけた。最上級生に実力発揮と意気込んだがコロナの影響で春は5試合、0勝1敗で終わった。この時点でスカウトからは「1位はちょっと難しいかな」の声も聞かれた。だが秋はエースとして法大を完封するなど大きく成長。3勝1敗の成績を残し自ら猛アピール。森下と同じく入札1位でプロ入りを決めた。

「身が引き締まる思い。まずは開幕ローテーションに入って応援される投手になりたい。目標は（森下さんと同じ）10勝を掲げていきます。入江はファンに愛され、そして勝てる投手を公言。横浜も好きな街で「本当にいい球団に指名されました」と満点ドラフトだった。

チームには首位打者に輝き主将を務める佐野恵太、1学年上の伊勢大夢があり、投手部門には木塚敦志コーチと明大の先輩が待つ。三浦大輔監督も投手出身で環境は抜群だ。

OB森下&佐野の活躍が明るいニュース  
 令和2年度はコロナウィルスの影響で、春季リーグ戦が8月に行われたため、年2回発行する駿台倶楽部会報も「春秋合併号」として1回の発行になりました。ご理解ください。1月のOB総会も中止となりました。

◆入江 大生（いりえ たいせい）1998年（平10）8月26日生まれ。22歳。作新学院3年夏の甲子園で優勝。3試合連続本塁打を打ちU18高校日本代表入り。明大入学後は投手1本。5勝7敗、防御率2・59。1対87、87時、右投げ右打ち。

出身の入江は「素晴らしい建物や自然遺産もある。活躍して観光大使も目指したい」と栃木をアピール。伸びる十分な右腕は希望を持ってプロの世界に飛び込む。

プロ野球では新人の森下暢仁投手（広島）が10勝を挙げ新人王、DeNA 4年目の佐野恵太選手が首位打者を獲得。暗い1年でしたが2人の活躍は明るいニュースでした。新チームでは丸山和郁外野手が主将に就任、田中武宏監督も2年目を迎えます。今後とも野球部の応援、よろしく願いいたします。（駿台倶楽部広報委員長 落合 紳哉）

☆紙面編集 齋木 駿